

UCMP 検査（制止距離確認）
手順書
（マシンルームレス用）

対象：S09-MRL105L-YSK 型

対象：S09-MRL105S-YSK 型

1. 目的

戸開走行保護装置検査時のブレーキ制動力及び特定距離感知装置の動作位置確認の安全な運転手順を明確にする事を目的とします。

2. 適用範囲

マシンルームレスタイプUCMP 認定機種に適用します。

構造名：S09-MRL1050-YS型

3. 準備する物

- ① WELSEC検査用タッチパネル（以下T/P）
- ② ドア回路短絡用ピン 2個
- ③ スケール
- ④ 安全柵

4. 作業員人数

2名以上 カゴ内運転及び距離計測作業員1名（以下、作業員記号/A）

最下階乗場作業員1名（以下、作業員記号/B）

5. 注意事項

- ◎ 本書を熟読の上、必ず専門技術者が実施してください。
- ◎ 法令で定められた定期検査については、日本工業規格 J I S A 4302「昇降機の検査基準」に基づき実施してください。
- ◎ 安全柵等を設置し第三者の安全を確保し、所定の検査準備を実施してから作業を開始してください。
- ◎ 部品交換は必ず当社指定品を使用してください。また、製品の改造は行わないでください。
- ◎ 製品の仕様を変更するには、より詳細な製品知識が必要ですので、当社に相談してください。
- ◎ 当社は以下のような不適切な管理と使用に起因する故障又は、事故については、責任を負いかねますので、あらかじめご承知置き願います。
 - 保守・点検、修理の不良に起因するもの
 - 製品を改造したことに起因するもの
 - 当社が供給していない機器、又は部品類を使用したことに起因するもの

●警告表示および諸注意等

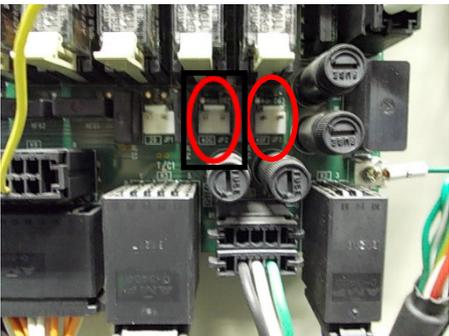
取扱いを誤った場合に生ずる危険と、その程度を示した警告表示マークの定義は、以下の通りです。

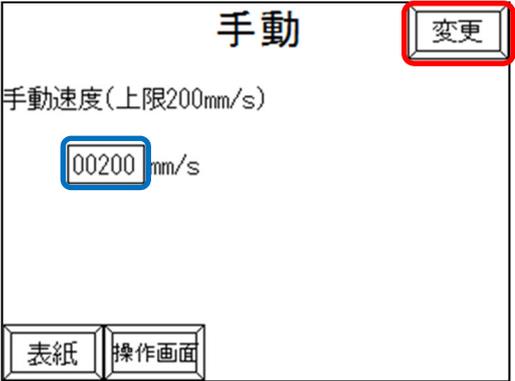
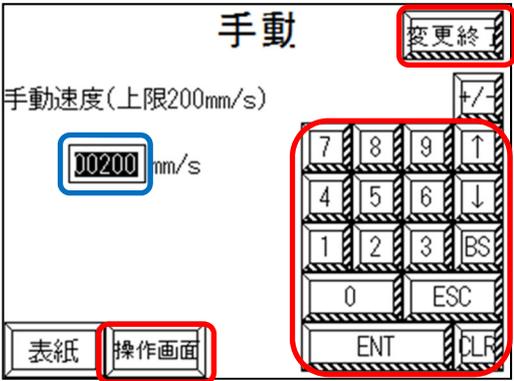
● 危険・警告・注意の定義

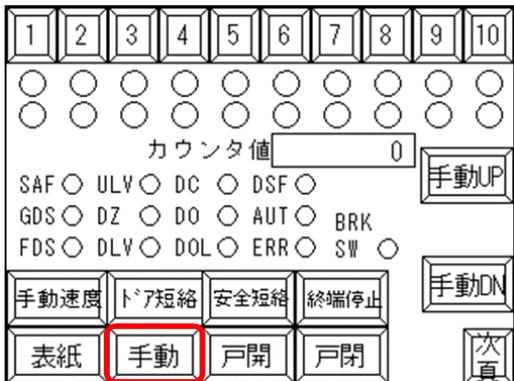
 危険	取扱いを誤った場合、死亡あるいは、重傷を負う可能性が極めて高くなります。
 警告	取扱いを誤った場合、重傷を負う可能性があります。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性があります。 又は、機器が損傷する可能性があります。

● 本資料に記載の“図記号”の定義

	実施いただきたい事柄を表します。
	「禁止事項」(禁止行為)を表します。

項目	作業者	内容	備考
I. 準備	A	① かご積載をノーロードにして最下階より1階床上、レベルに停止させ、操作盤内『自動・手動』スイッチを手動側にし、戸開にて『運転・停止』スイッチを停止側にして待機します。	乗場に安全柵を設置し第三者の安全を確保して下さい。
	B	② 安全柵を設置し、最下階乗場ドアを開錠して、ピットスイッチをカットしてピットに入り、制御盤内の盤内操作ブレーカを電源遮断します。  ③ ドア回路短絡用ピンをCTB基板上40G (JP2) 及び40F (JP3) に挿入しゲートドアスイッチ及び乗場ドアスイッチを短絡します。  ④ 最下階乗場操作盤BOX内、T/P用通信ケーブルを制御盤側に挿入し、T/P用電源コネクタケーブルをDC24Vコネクタに挿入します。  ⑤ 制御盤内の盤内操作ブレーカを電源投入し、ピットスイッチをONにして乗場へ出て下さい。	 危険 ドア回路短絡用ピンを挿入すると、乗場ドアスイッチ及びゲートドアスイッチが短絡されている状態になり非常に危険です。 必ず短絡中等の掲示をし、合図復唱にて短絡中である事を共同作業者に伝達して下さい。 短絡作業が終了したら、1F乗場ドアは必ず閉めて下さい。 ＊第三者の転落防止の為。

項目	作業者	内容	備考
I. 準備	B	<p>⑥ 盤内操作ブレーカ投入後、T/Pに画面選択が表示されますので、手動釦を押してください。(赤枠内)</p> 	
		<p>⑦ 現在の手動速設定値が表示されます。(青枠内) 変更を押します (赤枠内)</p> 	 <p>手動速度の値は現場により異なります。 手動速度は検査終了後、元の値に戻しますので必ず記録して下さい。</p>
		<p>⑧ テンキーが表示されますので、1→5→0→ENT→変更終了と押し、青枠内の設定が150に変更された事を確認して下さい。 150に変更された事を確認後、操作画面釦を押して操作画面へ移動して下さい。</p> 	 <p>注意 UCMP検査を実施する速度設定は150mm/sになります。</p>

項目	作業者	内容	備考
Ⅱ. 検査	B	<p>① 操作画面にて手動釦を押し、手動釦を黒く点灯させて下さい。(黒く点灯した状態で手動状態になります。)</p> 	 <p>この手動状態は、電源遮断にて復旧しますので、電源を遮断する前に必ず操作盤内『自動・手動』スイッチを手動側にして下さい。</p>
	A	<p>② かご操作盤内『運転・停止』スイッチを運転側にして下さい。</p> <p>戸が全開した状態で、かご操作盤内『平常・戸切』スイッチを戸切側にします。</p>	
		<p>③ かご操作盤にて手動アップ運転を実施します。 (手動アップ運転方法：最上階釦＋戸閉釦) 戸が閉まらないまま、かごが上昇し、約100mm～200mmにてUCMPが動作し制止します。</p> <p>制止したら、乗場敷居とかご敷居の距離をスケールにて測定し戸開走行保護装置検査記録表の制動距離へ記載して下さい。 (記録には当社発行の『エレベーター戸開走行保護装置検査記録表』を使用して下さい。)</p> 	 危険 <p>ドアが開いたまま上昇しますので、作業者は合図復唱を必ず実施し共同作業員へ伝達すると共に、第三者の安全を確認してから運転を実施して下さい。</p> <p>もし、200mmを超えても停止しない場合は、即座に運転を停止し、本手順書のⅠ.準備からやり直して下さい。</p>

項目	作業者	内容	備考
Ⅲ. 復旧	A	① かが操作盤にて『運転・停止』スイッチを停止側にし、『平常・戸切』スイッチを平常側にして下さい。	 危険 復旧作業にあたっては合図復唱を必ず実施し、共同作業者の作業を確認してから、次の作業に移って下さい。  危険 ドア短絡用ピンを必ず取り外してください。
	B	② 安全柵を設置して、最下階乗場ドアを開錠し、  ビットスイッチをカットしてビットに入り、 制御盤内の盤内操作ブレーカを電源遮断し、 制御盤内CTB基板に挿入したドア回路短絡用ピン40G及び40Fを外します。 制御盤内の盤内操作ブレーカを電源投入し、  ビットスイッチをONにして乗場へ出て下さい。1F乗場操作盤BOX内『自動・手動』スイッチを手動側にして下さい。   T/PにてI. 準備⑥～⑧の手順を参照し、手動速度を元の設定に変更して下さい。	
	A	③ 合図復唱にてドア短絡用ピンの取り外し及び手動速度の変更、最下階乗場操作盤BOX内『自動・手動』スイッチを手動側にした事を確認後、かが操作盤にてダウン運転を実施し、かごを乗場レベル±30mm以内に合わせて下さい。 (手動ダウン運転方法：最下階釦＋戸閉釦) 停止後、戸開状態で待機します。	
	B	④  合図復唱にてかごがレベル±30mm以内に停止した事を確認後、最下階乗場操作盤BOX内『自動・手動』スイッチを自動側へ戻します。	
	A	⑤ 合図復唱にて最下階乗場操作盤BOX内『自動・手動』スイッチを自動側になった事を確認後、かが操作盤内『自動・手動』スイッチを自動側にし復旧となります。	